



館長だより

山形県産業科学館

令和7年11月12日(水)

発行 館長 加藤 智 一

「平成レトロ」という懐かしくも新しい世界

「昭和レトロ」はすでに古い言葉になってしまったのでしょうか。2025. 11. 12 山形新聞の記事を参考に、令和の時代に入って注目を集めている「平成レトロ」という言葉について、考察したいと思います。

一言で言えば「平成レトロ」とは、1990 年代から 2000 年代初頭にかけての平成時代のカルチャーやアイテムを、懐かしさと新鮮さをもって再評価する動きのことです。かつては日常の一部だったものが、今では「エモい」「かわいい」として再び脚光を浴びているのです。「平成レトロ」の中心にあるのは、当時の子どもたち、特に「平成女兒」と呼ばれる世代が愛したアイテムや文化です。彼女たちが夢中になった雑貨、ゲーム、ファッションは、今の Z 世代やミレニアル世代にとっても魅力的に映るようです。その代表的なものとして、「ガラケー」「たまごっち」「写ルンです」「ほっぺちゃん」「Y2K ファッション」などが挙げられる。

まず「ガラケー」は、スマートフォンが登場する以前、主流だった携帯電話です。折りたたみ式やスライド式のデザイン、物理ボタンの操作感、着信メロディのカスタマイズなど、今では失われたアナログな魅力が詰まっていました。特に女子中高生の間では、デコレーションシールやストラップで個性を表現する文化が根付いていました。令和の今、ガラケー風スマホケースやアクセサリが登場し、当時の雰囲気再現する動きも見られるようです。

「たまごっち」は、1996 年にバンダイから発売された携帯型育成ゲームです。小さな画面の中でキャラクターを育てるというシンプルな仕組みながら、学校に持ち込んでこっそり世話をするなど、子どもたちの生活に深く根付いていました。現在では復刻版やスマホ連動型の進化版も登場し、親子二世代で楽しむことができるアイテムとなっています。

「写ルンです」は、富士フイルムが発売したレンズ付きフィルムカメラで、使い捨てながらも本格的な写真が撮れることで人気を呼びました。現像というプロセスを経て写真を見るという体験は、デジタル世代にとって新鮮であり、アナログの良さを再

発見するきっかけとなっています。特に「写ルンです」で撮影された写真の独特な色味や粒子感は、SNS 映えする「レトロ感」として評価されているようです。



発見するきっかけとなっています。特に「写ルンです」で撮影された写真の独特な色味や粒子感は、SNS 映えする「レトロ感」として評価されているようです。

そして「Y2K ファッション」は、2000 年前後に流行したサイバー感やメタリックな素材、ローライズジーンズ、ギャル系スタイルなどを特徴とするファッションの潮流です。かつては「派手」「奇抜」とされたスタイルが、今では「個性」「自由」として再評価され、ファッション誌や SNS で盛んに取り上げられています。「平成女兒」が憧れたギャル文化やプリクラ、ルーズソックスなども、Y2K ファッションの一部として再び脚光を浴びています。

このように、「平成レトロ」は単なる懐古趣味ではなく、過去の文化を新しい視点で楽しむ創造的なムーブメントでもあります。アナログの温かみや、手間をかけることの楽しさ、そして「待つ時間」の価値が、デジタル全盛の現代において新たな意味を持ち始めています。

また、「平成レトロ」は世代間の架け橋にもなっています。親世代がかつて愛したアイテムを、子どもたちが「かわいい」と感じて共有することで、家族の会話が生まれ、文化の継承が自然に行われています。山形のような地方都市でも、こうした「平成レ



トロ」を活かした取り組みで、「平成女兒」の記憶を呼び起こすような空間づくりによって、観光客だけでなく地元住民の購買意欲を駆り立てる取り組みがあっても良いかもしれません。